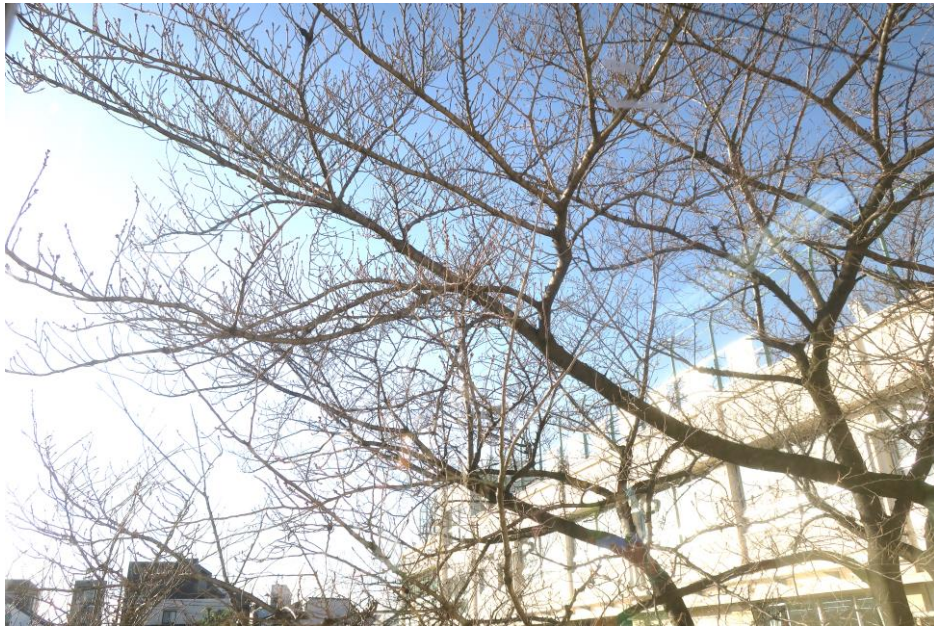


ユネスコスクールだより 後期号



「ユネスコスクールであったからこそ」

校長 深谷千恵

1年前の3月、目黒区教育委員会から1本の電話がありました。

「東京都教育委員会が委託する『持続可能な社会づくりに向けた教育推進校』をひきうけてくれませんか」とのことでした。なぜ本校に、と問い返した私への返答の中に、「ユネスコスクールとしての実績があるからです。」という理由が1つ入っていました。ユネスコスクールとは、と改めて確かめると

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため平和や国際的な連携を実践する学校
ESD（持続可能な開発のための教育）の推進拠点としての位置づけがある

とあります。「なるほど、この実績は認められているのだな。…では、子どもたちには何年ものとりくみの中でどれだけの力どんな力がついているのだろう」と思いをめぐらせました。

地球や世界が明るい未来を信じて歩めるように、その社会づくりに大切な一員として確かに存在していく人に育ってほしいと、私は考えます。それには、情報や知識を取り入れる力・自分なりに咀嚼する力・発信したり行動したりする力のどれかが必要です。日々の学習の中で、特別活動の中で、行事の中で、それらの力が伸びていくように意識して教育活動を展開してきました。

今年度の後半では、どんな様子であったか、報告させていただきます。

令和元年度目黒区立五本木小学校
令和2年2月28日

「いのちのバトンをつなぐユネスコスクールの子」

<http://www.meguro.ed.jp/meghngeh/>

表紙絵 2年生（M・A）「ふゆめのゆめ」